

東亞天文協會觀測部月報

黃道光課報告 (1933年五月)

課長 荒木健兒

日没後西天の黃道光は、その頂點が双子座の體河を振切つて見易くはなるが、時と共に淡くなる運命はどうすることも出来ない。興味はどの程度まで認め得るかにあり、毎年の例により「夏眠期」の豫行演習の月である。一般の成績は、前月に比し、極度に下る。

1. 觀測者(地方別)と觀測數

觀測者	略符	觀測地	黃道光	月の黃道光	對日照
下保茂	Kh	札幌市	2		1
佐野英生	Sn	山梨縣身延山	3	1	2
沓掛七二	Kt	長野縣青木村	2		
笹部榮一	Sb	大阪府池田町	2		
橋本迪	Hs	兵庫縣相生町	2		
本田實	Hd	鳥取縣八東村	2		
松本武男	Mt	臺中市	3		

2. 黃道光觀測概要表(臺灣の時刻は西部標準時のまま)

Hs	11日20時15分	Sn	11日20時30分	Mt	19日20時20分	Sb	26日21時15分
Kt	〃 20 20	Kt	13 20 25	Mt	22 20 10	Hs	27 20 30
Hd	〃 20 25	Sn	〃 21 30	Hd	〃 20 55	Sn	〃 21 30
Sb	〃 20 30	Mt	15 20 00	Kh	〃 21 05	Kh	〃 21 40

3. 上, 中旬の黃道光に見られた變化

多くの場合、顯著ではないが、變動や消長が認められてゐるのが面白い。太陽の小活動をしてゐた頃である。4月30日から5月2日にかけて、稀な急激開始による磁氣嵐があつたさうであるが、黃道光の觀測がないから影響はわからない。本田君は熱心に等光線をとつてゐる。觀測地に恵まれてゐるからである。

4. 笹部君の黃道光觀測

笹部君は、眼鏡のためばかりではあるまいが、光帯をよく見る。西天の黃道光が衰へても光帯が依然として見られることを不思議としてゐる。11日には黃經 145° のあたりの黃道光の頂點から約 2° はなれて不規則形の光帯を對日照に接續するまで見てゐるが、月出の時刻に近いのに、東天にまで淡い光を認めたことは一驚である。而もその光帯が火星をやつと含み、木星を敬遠してゐる形は何の理由によるのであらうか？ 26日には奇形光帯と共に、黃道光の中部に北方の枝狀光帯2本をとつてゐる。

5. 佐野君の北方異常光帯の特殊觀測

大熊星座の方向に異様の光帯が認められることに極度に神経質になつてゐる佐野君は、黃緯 25° の黃道星圖を狭しとし、乙種流星圖を用ひて、今月は3回スケッチを試みてゐる。微弱な光を認め得る極限までとつたといふことであるが、光帯は3本或は4本長いのが短いのが認められ、その間に點々として暗部が加へられてゐる。その詳細な觀測振りは誠に「神技」と稱へていいと思ふ。

6. 臺灣の觀測の大要

15日には非常に明るかつた。不規則で急激な變動を認め、弱い光帯をとつてゐる。頂點の偏りが此 8° といふのは異例であらう。然るに、19日と22日との觀測では、光帯は淡くて認められず、幅の値が小さい。變化は緩慢とある。3日ともその色は帶青灰白色となつてゐる。

7. 下旬北海道の觀測大略

22日と27日とはいづれもやや遅い時刻のものであるが、比較してみると、その形に著しい相異點が見られる。22日には底部が擴つてゐるのに、27日にはその約半分まで狭い。頂點はその反對に却つて高かつた。 26° も差があるから眼に立つ。

8. この頃曉の黃道光について

觀測は一個もないが、和歌山縣の小椋流星課長は、水瓶流星群觀測に當り注意し、5月7日極めて薄く、認識困難の程」と通信にあつた。

9. 月の黃道光について

佐野君が11日20時15分にとつてゐる。月齡16.3といふ大きい月の出るところで、時刻はかなり前で適當であらう。普通の出現。西天には黃道光が見え、相對してゐるところが美景ではある。

10. 對日照の觀測

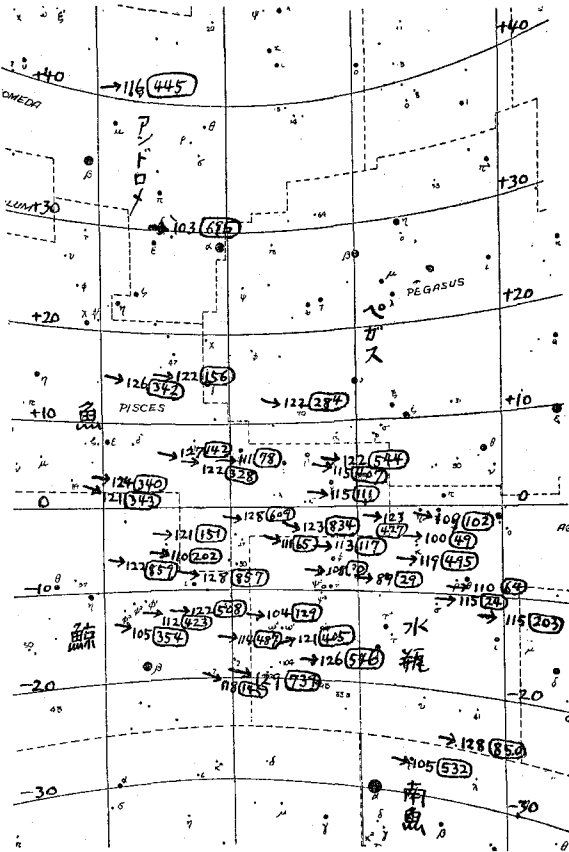
佐野君が13日と27日とに、下保君が22日に、いづれも夜半前の觀測である。佐置は天秤星座で、南にやや低く、銀河に近い、圓形或は橢圓形で、大きくない。光帯もない。

蛇遣ひ座第三新星 去八月20日、コペンハーゲン天文臺から花山へ來た電報によると、八月15日に米國の Peltier 氏が蛇遣ひ座の中にある第三新星「RS星」が俄然6等に級に輝やいてゐるのを見たとある。

太陽課 黑點相對數報告 (1933年七月)

觀測者(地名)	松本(臺中)	渡邊(杵築)	淺野(長府)	山田(小郡)	荒木(倉敷)	改發(須磨)	崔部(神戸)	伊達(雲雀丘)	佐々木(福知山)	大橋(京都)	西村(京都)	龜井(花山)	木邊(近江)	森澤(大垣)	三澤(諏訪)	沓掛(長野)	清水(島田)	水谷(東京)	稻垣(東京)	千葉(水澤)	下保(札幌)
鏡徑	50	80	70	75	75	150	75	36	150	90	60	55	73	78	73	102	100	38	75	50	58
倍率	40	64	60	48	75	68	77	55	64	94	90	64	60	92	83	75	73	50	30	50	44
方法	直視	投影	直視	直視	直視	直視	直視	直視	投影	直視	直視	直視	直視	直視	直視	直視	直視	直視	直視	直視	直視
1	雨	曇	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	曇	0
2	雨	0	0	曇	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	曇	0
3	雨	0	0	曇	0	0	0	0	0	0	0	欠	0	0	0	0	曇	雨	曇	0	0
4	雨	0	0	0	0	0	0	曇	0	0	0	欠	0	0	0	0	0	0	曇	0	0
5	原	0	0	0	0	0	0	0	曇	0	0	0	0	病	0	0	0	0	曇	0	0
6	曇	稿	曇	13	13	曇	11	0	曇	0	0	12	11	氣	11	11	14	0	0	12	0
7	旅	縮	15	13	13	12	13	0	曇	12	0	12	13	の	13	12	13	11	0	13	12
8	24	切	25	26	24	欠	24	11	0	欠	0	24	24	た	24	24	26	23	0	13	23
9	28	ま	25	28	27	16	26	欠	欠	0	26	26	26	め	28	28	29	24	0	曇	27
10	25	まで	24	12	26	14	13	0	0	0	0	0	13	休	26	29	16	11	0	13	11
11	旅	に	欠	15	52	14	15	0	曇	0	0	0	0	測	14	27	27	13	0	14	13
12	旅	到	22	22	23	23	11	0	曇	曇	0	0	0	0	0	曇	11	11	0	曇	0
13	旅	着	0	0	曇	0	0	曇	0	曇	曇	曇	曇	0	雨	曇	曇	0	0	曇	0
14	旅	せ	0	0	0	0	曇	雨	雨	0	0	雨	曇	0	雨	雨	曇	曇	曇	雨	0
15	旅	ず	0	0	0	0	曇	0	0	0	欠	0	0	0	雨	0	0	0	曇	雨	0
16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
19	0	0	曇	0	0	0	0	病	0	曇	0	0	0	0	0	0	0	0	0	曇	0
20	0	0	0	0	0	0	0	病	0	欠	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
21	雨	0	0	0	0	0	0	病	0	欠	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
22	曇	0	0	0	0	0	曇	病	0	欠	0	0	曇	0	0	0	0	0	0	0	0
23	0	0	欠	曇	0	0	曇	曇	0	欠	0	0	曇	0	0	0	0	0	0	欠	0
24	0	欠	雨	暴	曇	曇	0	曇	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
25	0	0	雨	雨	曇	曇	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
26	0	0	雨	曇	0	曇	0	曇	雨	0	0	0	雨	0	雨	雨	曇	雨	旅	0	0
27	0	0	曇	曇	0	0	0	0	曇	欠	0	雨	0	0	0	0	0	曇	旅	曇	0
28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	曇	旅	0
29	0	0	0	欠	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	曇	0
30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	曇	0	曇	旅	0
31	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	病	0	0	0	0	0	0	0	曇	曇	0
平均	5	5	8	9	4	4	2	0	2	0	3	5	5	7	6	4	0	5	4		
日數	17	21	23	22	24	28	22	20	23	23	25	25	28	27	26	26	12	17	31		

寫
眞
課



一九三三年九月中旬の小遊星圖

本年9月中旬に我が地球に接近逆行中の小遊星の位置と運動方向(矢の方向)を示す。
 (○)の中は小遊星の番號を表はし、其の傍の數字は光度で12.9等級迄のものを記入してある。

土星に一大白紋 去八月3日以來歐米の遊星面觀測者は土星の赤道部にやゝ楕圓形の一大白紋を發見し、大騒ぎしてゐる由、報知があつた。大きさは地球ぐらゐ、赤道部の自轉週期10時14分を以つて回轉してゐる。

一大火球 去七月21日午後10時47分頃、新潟縣高田市上空で一大火球が現はれ、爆聲も激しかつた由、隕石が落ちたのであらう。同地方からの報告を待つ。